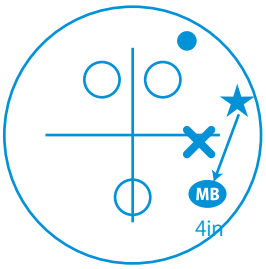
ボールの特性レポート
BALL REPORT

ボール名	投球者	センター
アキュライン・ツアープレミアム インテル スリー	徳江 和則	平和島スターボウル

● ピン　★PAP　✕CG　■バランスホール



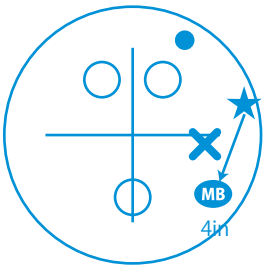
テストボール： アキュライン・ツアープレミアム インテル スリー

フレアーの幅：　インチ

PAPからピンとの距離：4 インチ

表面加工
- ☑箱出し状態
- ☐加工
- ☐ペーパー　番
- ☐ポリッシュ

研磨剤



比較対照ボール： アキュライン・ツアープレミアム インテル ツー

フレアーの幅：　インチ

PAPからピンとの距離：4 インチ

表面加工
- ☑箱出し状態
- ☐加工
- ☐ペーパー　番
- ☐ポリッシュ

研磨剤





ACCU LINE TOUR PREMIUM INTEL III

Cover	Type	Core	RG(15P)	ΔRG(15P)	INTΔRG(15P)	Surface	Skid	Backend	Hook
NANO-BOND 2.0	SOLID	MODIFIED PREMIUM	2.523	0.040	0.012	800 ABRALON P	67	71	73

ACCU LINE TOUR PREMIUM INTEL II

Cover	Type	Core	RG(15P)	ΔRG(15P)	INTΔRG(15P)	Surface	Skid	Backend	Hook
NANO-BOND 3.0	PEARL	MODIFIED PREMIUM	2.523	0.040	0.012	800 ABRALON P	69	71	72



ボールの評価

Accu Line TOUR PREMIUMシリーズは、強い曲がりだけを求めるのではなく、レーンコンディションを正確に読みながら安定したラインを作れることを重要視してきました。今回の「INTEL 3」は、その考え方をさらに明確にし、トーナメント中盤の変化したレーンでも迷わず選択できるボールを目指したモデルと言えます。最大の変更点は、新開発Nano-Bond 2.0 Solidの採用です。前作INTEL 2のNano-Bond 3.0 Pearlから、あえてカバー強度を「2.0」に抑えたSolid素材へ変更されています。
実際に投球すると、Solidだから手前から強く噛むという印象はなく、フロントでは非常にスムーズ。ミッドレーンに入ってから徐々にレーンを捉え、バックエンドまでしっかり動き切る感じがあります。Solidで「手前を走らせながら、先を暴れさせない」というイメージも持たれやすいですが、Solidらしからぬメリハリ感を感じる曲がりとスキッドのバランスが非常に良いのがINTEL 3の大きな特徴です。
コアにはINTEL 2と同じModified Premium Core with 衝撃吸収コアシステムIVを継続採用。15ポンドでRG2.523、ΔRG0.040、マスバイアス0.012という数値を持つ非対称コアで、適度な転がりと軸の安定性を作り出します。同じコアを使用しているからこそ、今回のカバー変更による性格の違いが非常に分かりやすく感じられました。
INTEL 2と比較すると、Pearl素材らしい走りからバックエンドで方向を変えるINTEL 2に対し、INTEL 3はミッドからの立ち上がりが自然で、ブレイクポイントからピンまでの動きがより読みやすくなっています。実投でも先の動きを必要以上に強調するのではなく、投球したラインに沿って安定した軌道を作る印象が強く、オイルの濃淡やレーン変化に対する許容範囲も広く感じました。
INTEL 3はINTEL 2より単純に強い、弱いというモデルではありません。カバー強度をあえて抑えたSolid素材と実績あるPremium Coreを組み合わせることで、走り、キャッチ、曲がりのバランスを再構築しています。

特記事項

トーナメント中盤、ボール選択に迷いやすい変化の中で、ラインを安定させたい時に自然と手が伸びる、「迷ったときこそINTEL 3」というコンセプトを実投でも感じられる仕上がりと言えるでしょう。